



2022年3月期 決算説明会資料



2022年5月16日
リンテック株式会社

2022年3月期 連結業績の概要①

	'21/3月期 累計	'22/3月期 累計	増減 (増減率)
--	---------------	---------------	-------------

(単位:百万円)

売上高	235,902	256,836	20,934 (8.9%)
-----	---------	---------	------------------

営業利益	17,030	21,584	4,553 (26.7%)
------	--------	--------	------------------

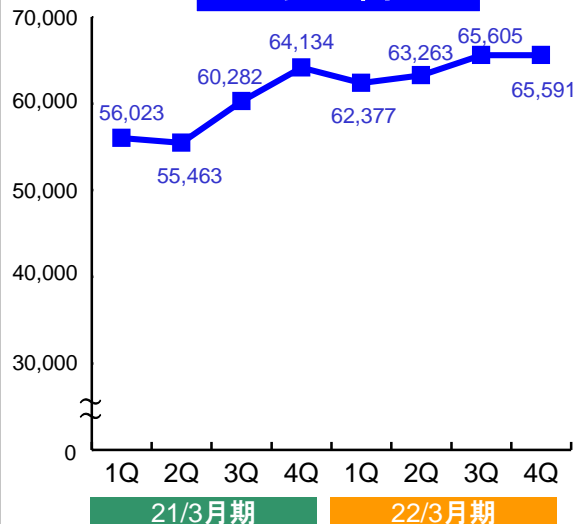
経常利益	16,770	22,698	5,927 (35.3%)
------	--------	--------	------------------

親会社株主に 帰属する 当期純利益	11,407	16,641	5,233 (45.9%)
-------------------------	--------	--------	------------------

※2022年3月期は収益認識会計基準適用後の金額となっております。収益認識会計基準の適用による売上高の減少額は136億円となりました。

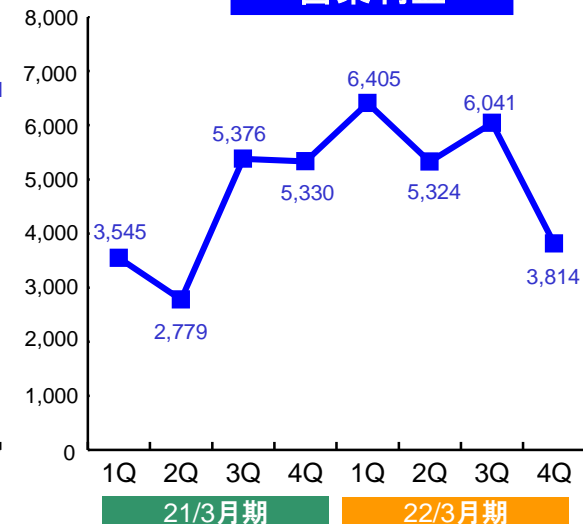
(単位:百万円)

売上高



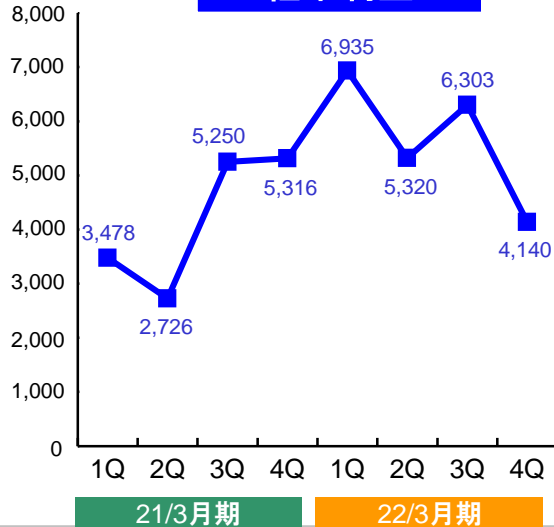
(単位:百万円)

営業利益



(単位:百万円)

経常利益



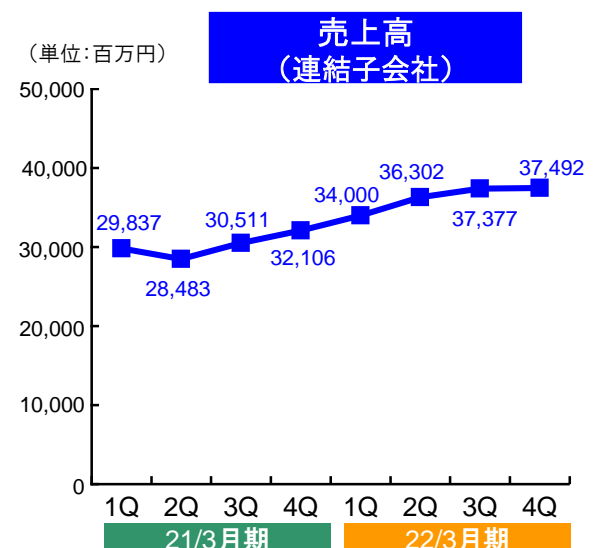
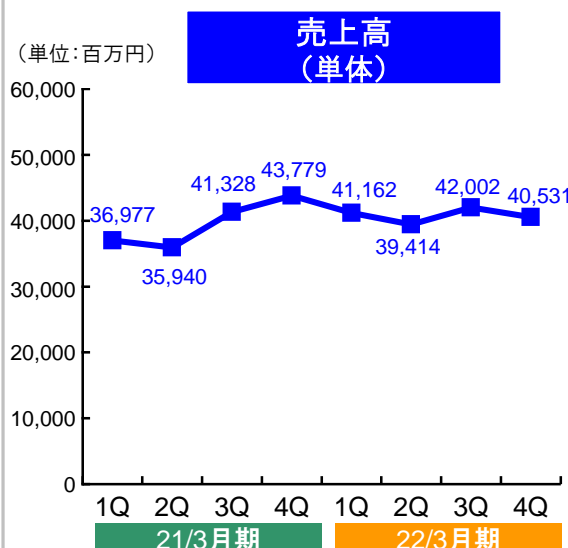
(単位:百万円)

親会社株主に 帰属する 当期純利益

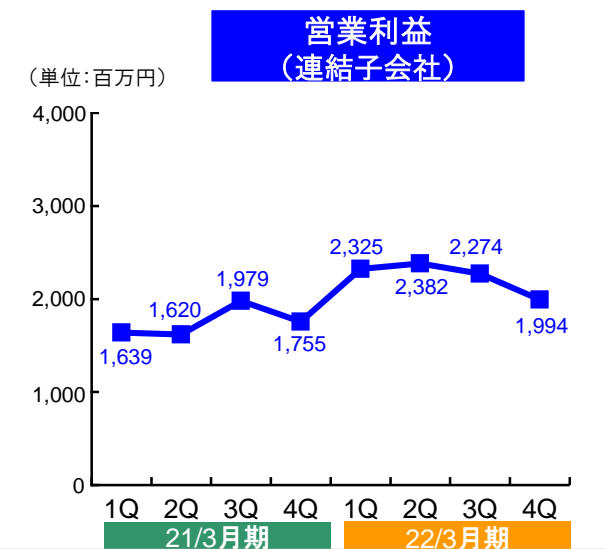
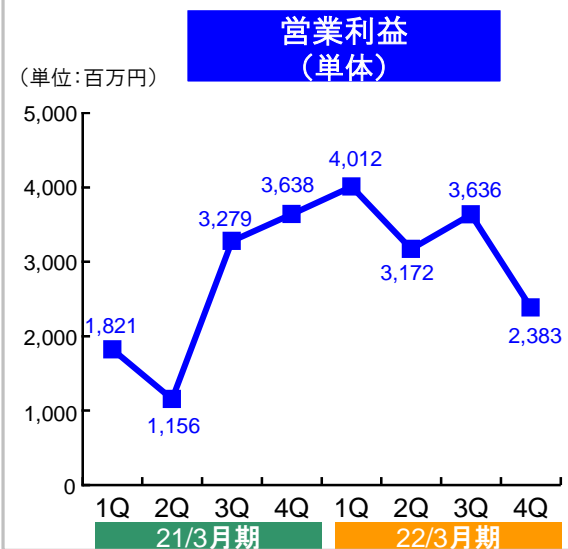


2022年3月期 連結業績の概要②

	'21/3月期 累計	'22/3月期 累計	増減 (増減率)
売上高			
(単位:百万円)			
単体	158,024	163,109	5,085 (3.2%)
連結子会社	120,937	145,171	24,234 (20.0%)
消去	▲43,059	▲51,444	▲8,385
計	235,902	256,836	20,934 (8.9%)



	'21/3月期 累計	'22/3月期 累計	増減 (増減率)
営業利益			
(単位:百万円)			
単体	9,894	13,203	3,309 (33.4%)
連結子会社	6,993	8,975	1,982 (28.3%)
消去	143	▲594	▲737
計	17,030	21,584	4,553 (26.7%)



※2022年3月期は収益認識会計基準適用後の金額となっております。

➤ 売上高

● 単体

アドバンストマテリアルズ事業部門が半導体・電子部品関連製品の好調な需要に支えられ順調に推移
その他の事業部門もコロナ禍の影響を大きく受けた前年同期に比べ需要が回復したことにより総じて堅調に推移

● 連結子会社

アドバンストマテリアルズ事業部門の販売子会社が堅調
マックタックグループが昨年4月にデュラマーク社を買収したこともあり大きく伸長
印刷・情報材、産業工材事業部門の米国、中国、アセアン地域の子会社も前年同期に比べ回復

➤ 営業利益

● 単体

(主な増益要因)

販売数量の増加、売上構成の改善	約 6.4 億円
原価低減効果など	約 6 億円

(主な減益要因)

パルプ、石化原材料価格などの上昇	約 2.4 億円
販売費の増加	約 6 億円
固定費の増加	約 7 億円

● 連結子会社

アドバンストマテリアルズ事業部門の販売子会社
およびマディコや中国、アセアン地域の子会社の
増収効果などにより増益

【期中平均為替レート(実績)】

	(2021/3)		(2022/3)
円/US\$	106.43	→	110.37
円/¥-□	121.97	→	130.34
円/WON	0.0906	→	0.0964
円/中国元	15.42	→	17.12
円/台湾\$	3.62	→	3.96

2022年3月期 印刷材・産業工材関連の概要①

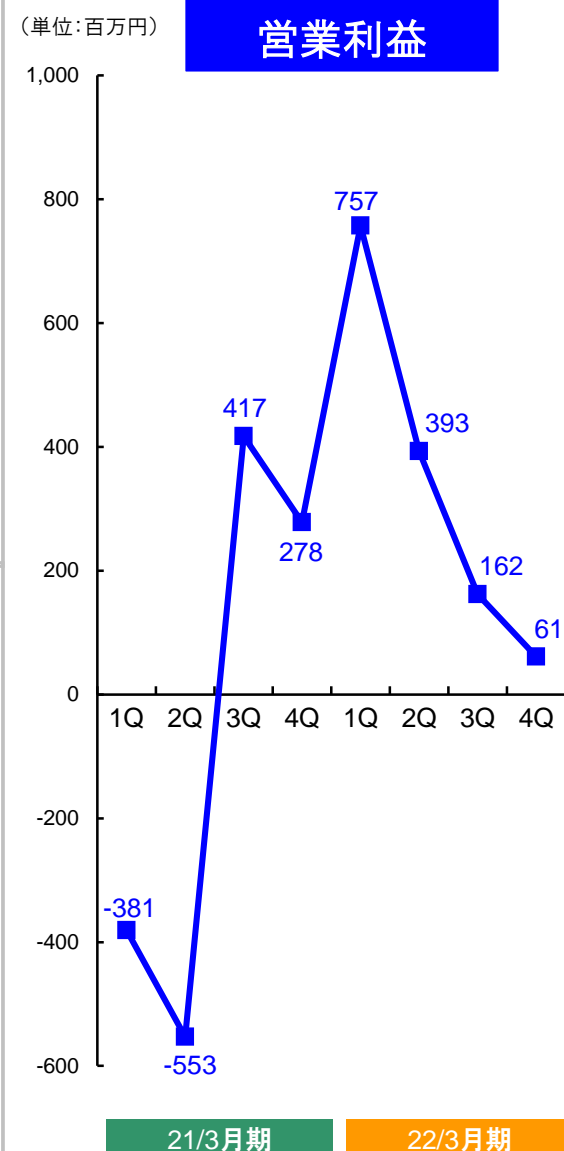
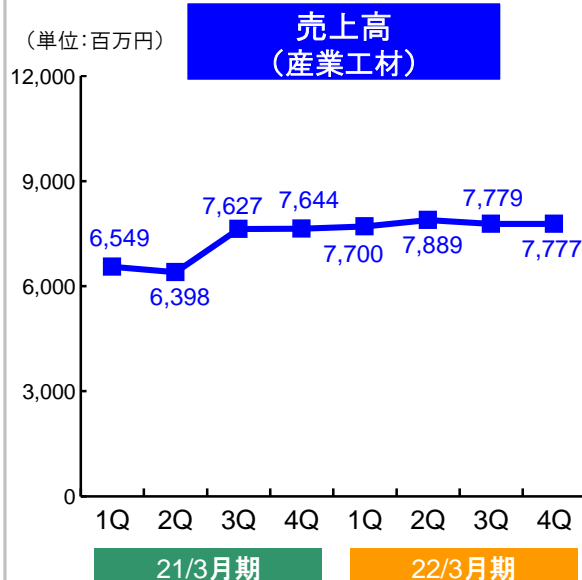
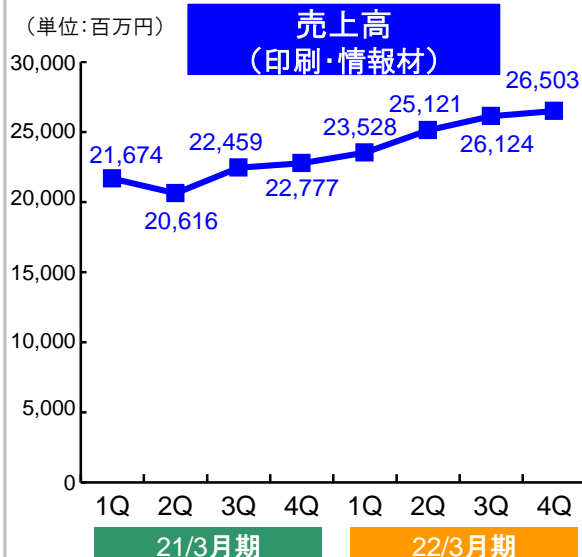
21/3月期 累計	22/3月期 累計	増減額 (増減率)
--------------	--------------	--------------

(単位:百万円)

印刷・情報材 事業部門	87,526	101,276	13,749 (15.7%)
産業工材 事業部門	28,218	31,145	2,926 (10.4%)
売上高 合計	115,745	132,421	16,676 (14.4%)
営業利益	▲239	1,373	1,613 (-%)

※2022年3月期は収益認識会計基準適用後の金額となっております。

※2022年3月期の期首より MACtac Americas, LLC の産業工材事業部門に関わる全ての製品を印刷・情報材事業部門へ移管しました。2021年3月期の実績は組み替えて記載しております。



➤ 印刷・情報材事業部門

国内：化粧品や飲料キャンペーン用などの需要は低調

食品や通販関連の需要が堅調

海外：中国、アセアン地域において好調に推移

米国において買収効果もあり大きく伸長

収益認識会計基準の適用による売上高の減少額：14億円

➤ 産業工材事業部門

国内外ともにウインドーフィルムや自動車用粘着製品の需要が回復

装飾用フィルムや通販向け装置が好調に推移

収益認識会計基準の適用による売上高の減少額：5億円

2022年3月期 電子・光学関連の概要①

21/3月期 累計	22/3月期 累計	増減額 (増減率)
--------------	--------------	--------------

(単位:百万円)

アドバンス マテリアルズ 事業部門	55,294	67,429	12,134 (21.9%)
-------------------------	--------	--------	-------------------

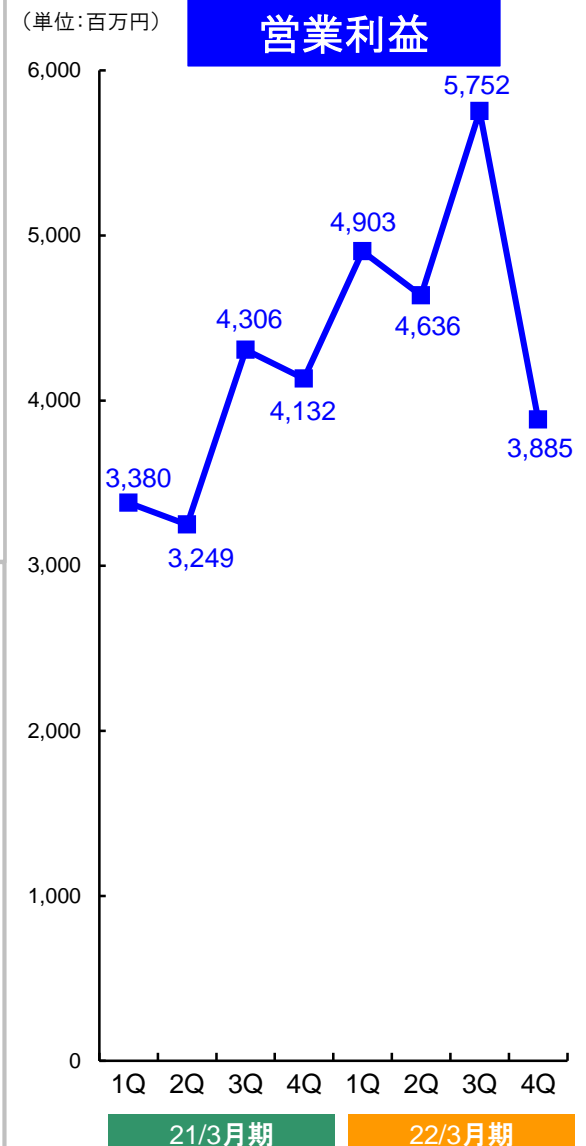
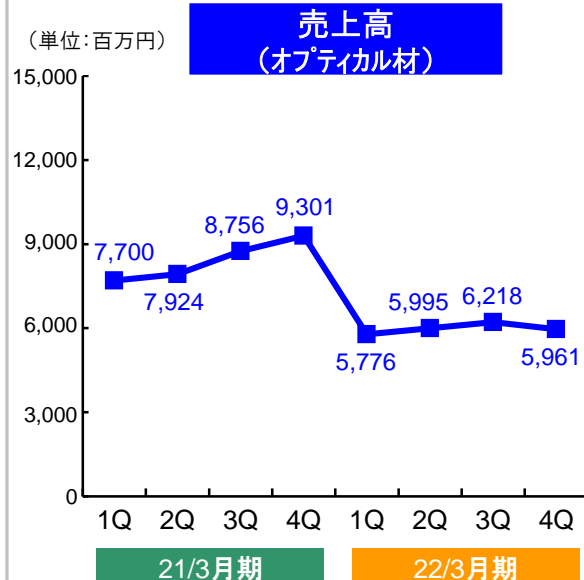
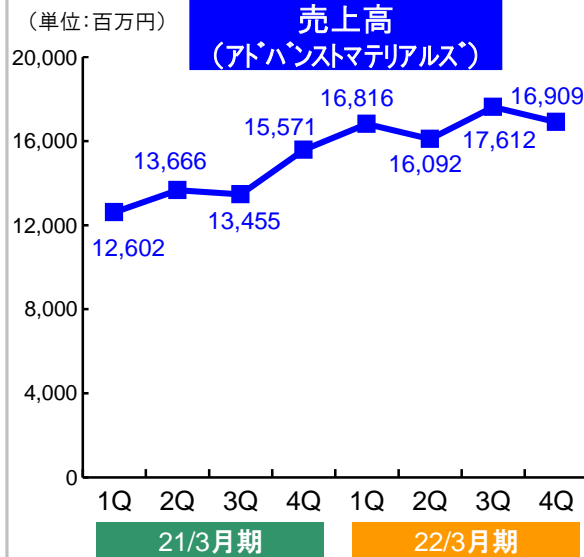
オプティカル材 事業部門	33,681	23,950	▲9,731 (▲28.9%)
-----------------	--------	--------	--------------------

売上高 合計	88,976	91,379	2,403 (2.7%)
-----------	--------	--------	-----------------

営業利益	15,067	19,176	4,108 (27.3%)
------	--------	--------	------------------

※2022年3月期は収益認識会計基準適用後の金額となっております。

※2022年3月期の期首より洋紙・加工材関連の一部製品を電子・光学関連へ移管しました。2021年3月期の実績は組み替えて記載しております。



➤ アドバンストマテリアルズ事業部門

半導体関連粘着テープおよび関連装置、積層セラミックコンデンサ関連テープは5G対応スマートフォンやカーエレクトロニクス、テレワーク拡大に伴うパソコン用などの需要増加により好調に推移

収益認識会計基準の適用による売上高の減少額：軽微

➤ オプティカル材事業部門

光学ディスプレイ関連粘着製品は大型テレビやパソコン、スマートフォン用などの需要が堅調

収益認識会計基準の適用による売上高の減少額：111億円

2022年3月期 洋紙・加工材関連の概要①

	21/3月期 累計	22/3月期 累計	増減額 (増減率)
--	--------------	--------------	--------------

(単位:百万円)

洋紙 事業部門	14,442	15,341	898 (6.2%)
------------	--------	--------	---------------

加工材 事業部門	16,738	17,694	955 (5.7%)
-------------	--------	--------	---------------

売上高 合計	31,181	33,035	1,854 (5.9%)
-----------	--------	--------	-----------------

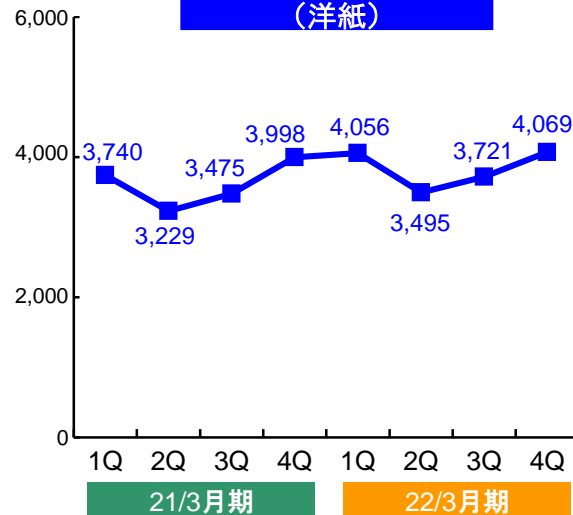
営業利益	2,138	971	▲1,167 (▲54.6%)
------	-------	-----	--------------------

※2022年3月期は収益認識会計基準適用後の金額となっております。

※2022年3月期の期首より洋紙・加工材関連の一部製品を電子・光学関連へ移管しました。2021年3月期の実績は組み替えて記載しております。

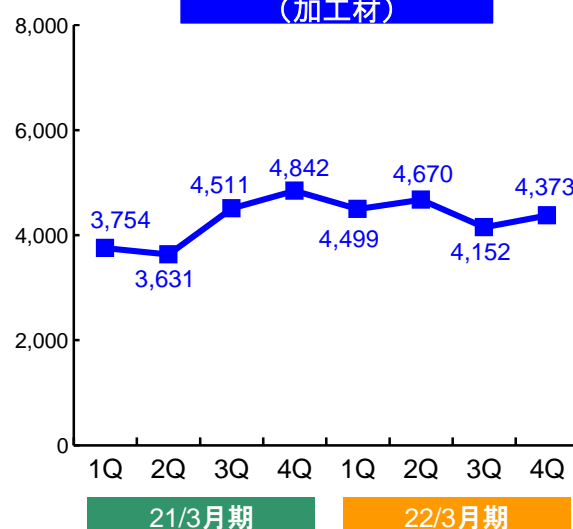
(単位:百万円)

売上高 (洋紙)



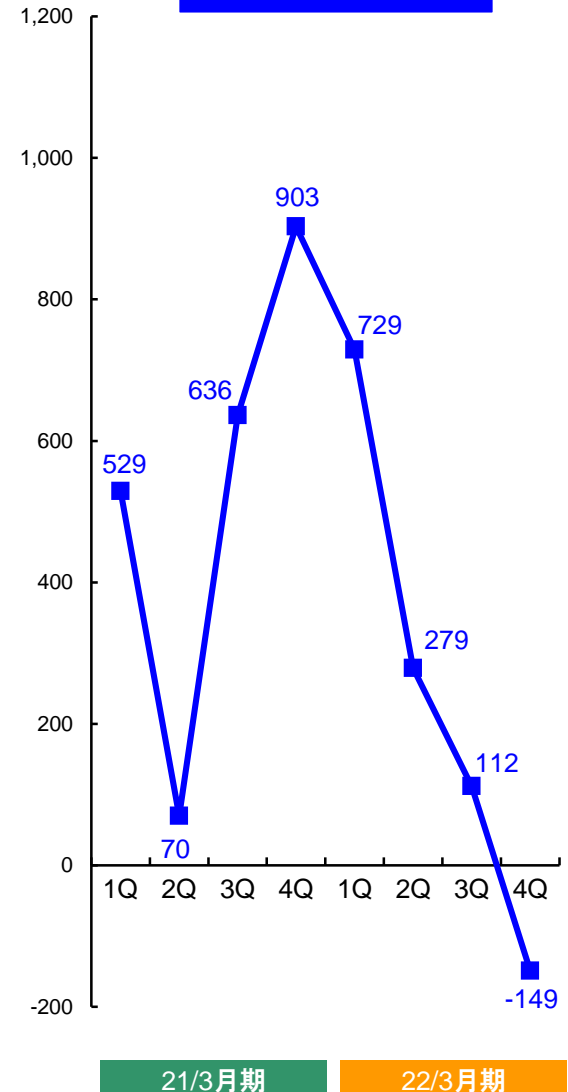
(単位:百万円)

売上高 (加工材)



(単位:百万円)

営業利益



➤ 洋紙事業部門

主力のカラー封筒用紙が堅調に推移

クリーンルームなどで使用される工業用特殊紙やファストフード向け耐油耐水紙の需要が回復

収益認識会計基準の適用による売上高の減少額：6億円

➤ 加工材事業部門

剥離紙は前年同期並み

合成皮革用工程紙は車両用の需要が回復

炭素繊維複合材料用工程紙はスポーツ・レジャー用の需要増加により順調に推移

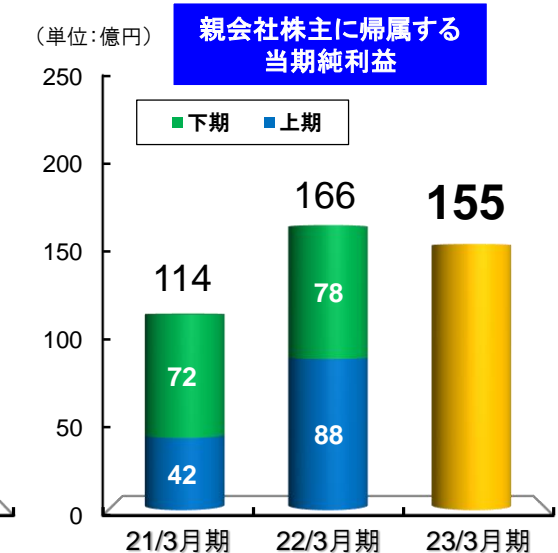
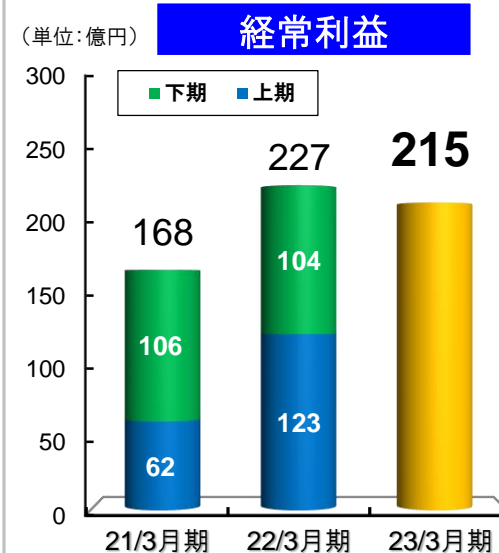
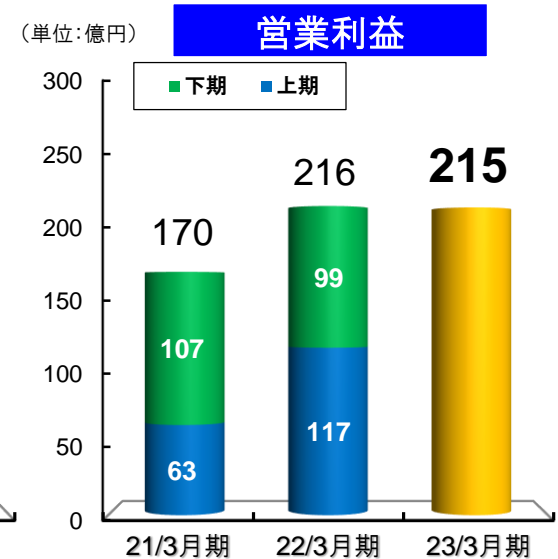
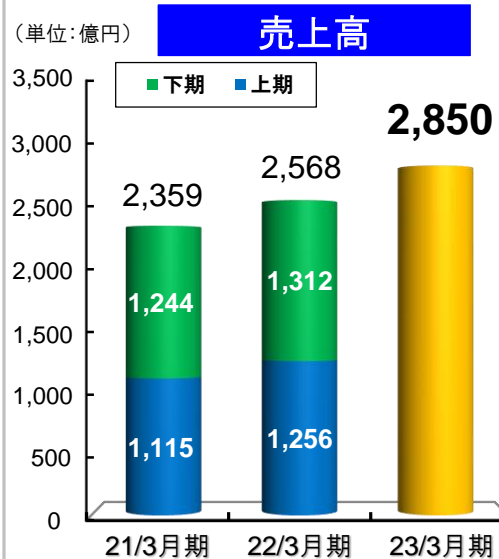
収益認識会計基準の適用による売上高の減少額：軽微

2023年3月期 連結業績の見通し①

	22/3月期 実績	23/3月期 見通し	増減	増減率
(単位:億円)				
売上高	2,568	2,850	282	11.0%
営業利益	216	215	▲1	▲0.4%
経常利益	227	215	▲12	▲5.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	166	155	▲11	▲6.9%

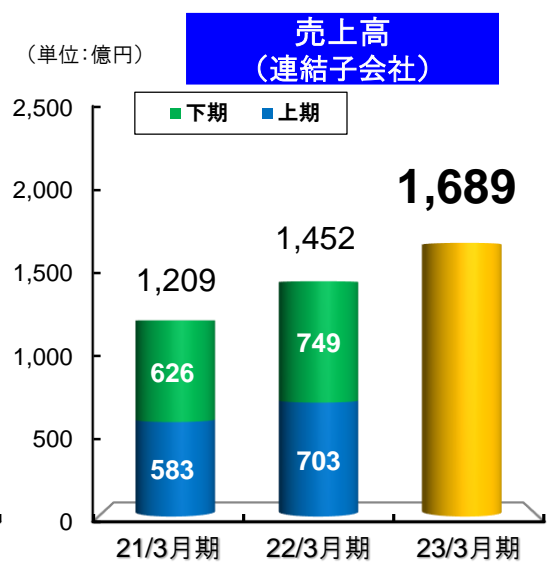
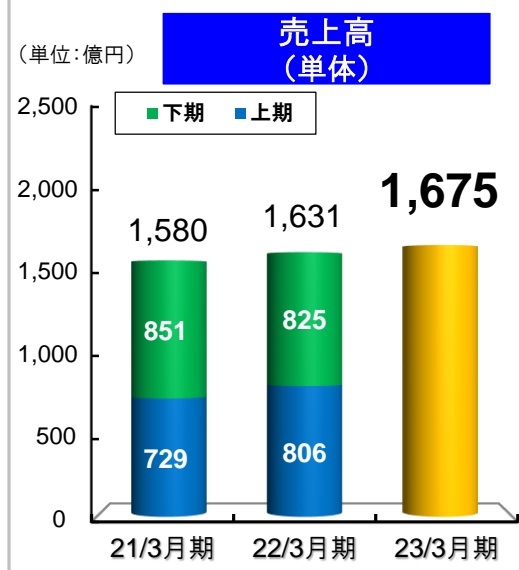
【為替レート】

	(2022/3 実績)		(2023/3 想定)
円/US\$	110.37	→	115.00
円/ユーロ	130.34	→	136.30
円/WON	0.0964	→	0.1012
円/中国元	17.12	→	18.10
円/台湾\$	3.96	→	4.15

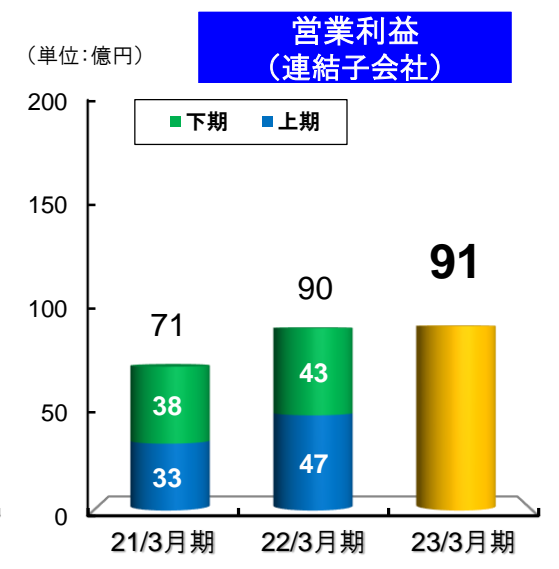
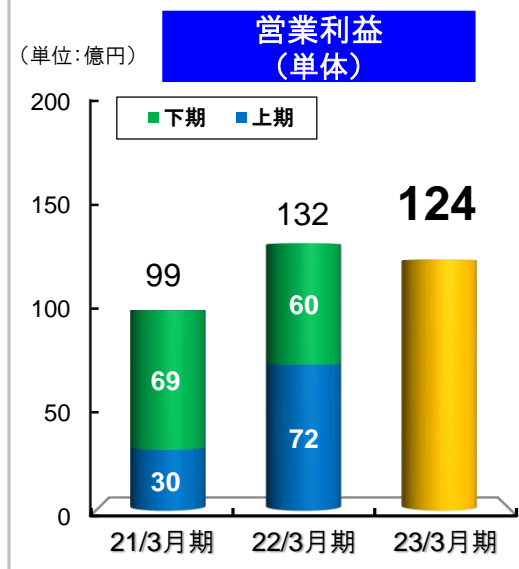


2023年3月期 連結業績の見通し②

	22/3月期 実績	23/3月期 見通し	増減	増減率
売上高				
	(単位: 億円)			
単体	1,631	1,675	44	2.7%
連結子会社	1,452	1,689	237	16.3%
消去	▲515	▲514	1	—
計	2,568	2,850	282	11.0%

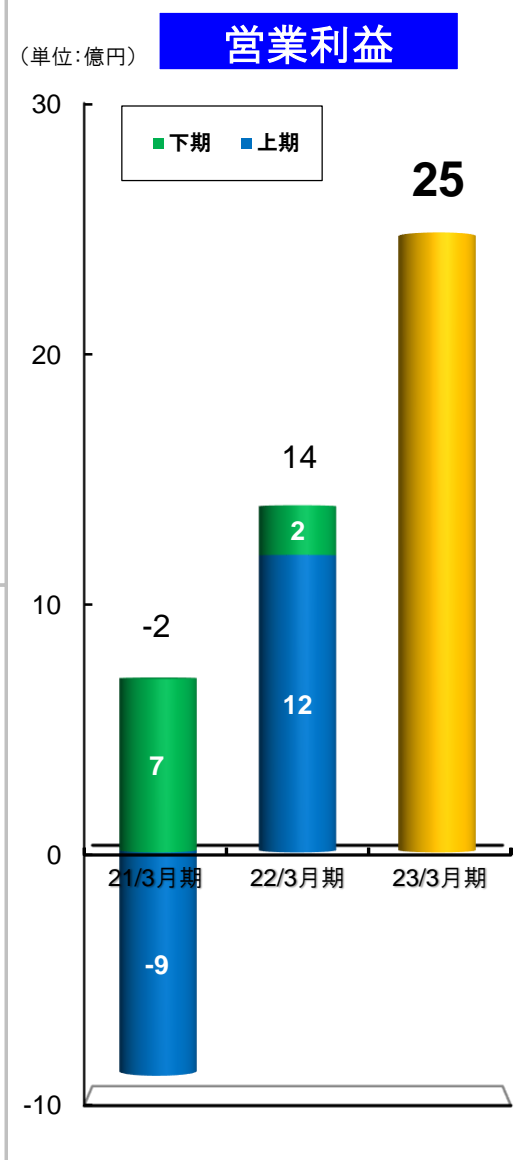
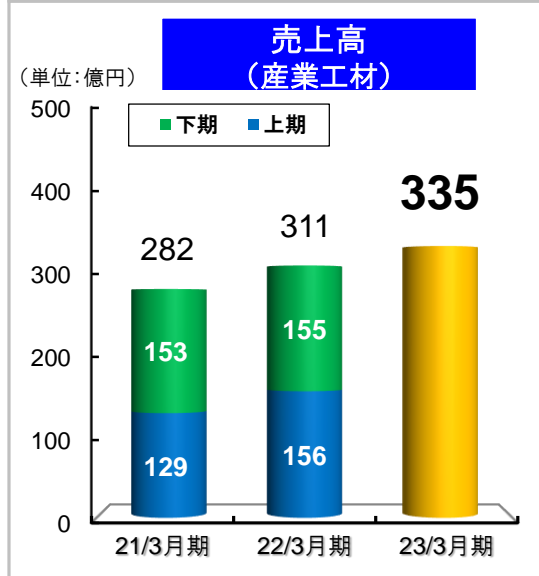
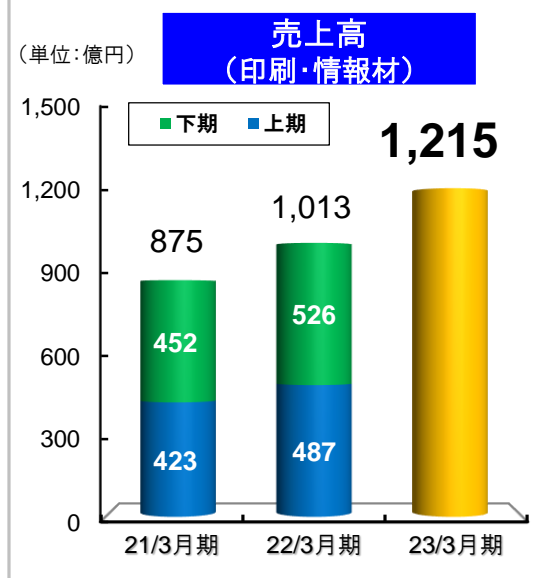


	22/3月期 実績	23/3月期 見通し	増減	増減率
営業利益				
	(単位: 億円)			
単体	132	124	▲8	▲6.1%
連結子会社	90	91	1	1.1%
消去	▲6	0	6	—
計	216	215	▲1	▲0.4%



2023年3月期 印刷材・産業工材関連の見通し①

	22/3月期 実績	23/3月期 見通し	増減	増減率
(単位: 億円)				
印刷・情報材 事業部門	1,013	1,215	202	20.0%
産業工材 事業部門	311	335	24	7.6%
売上高 合計	1,324	1,550	226	17.1%
営業利益	14	25	11	82.1%



➤ 印刷・情報材事業部門

環境配慮製品の継続的な開発と拡販に注力

国内外においてQCD強化による販売数量の増加と収益の改善を図る

スピネカー社が加わったことでマックタックグループの売上規模が600億円超になる見通し

巨大市場である米国においてさらなるシェア拡大と収益性の向上に取り組む

➤ 産業工材事業部門

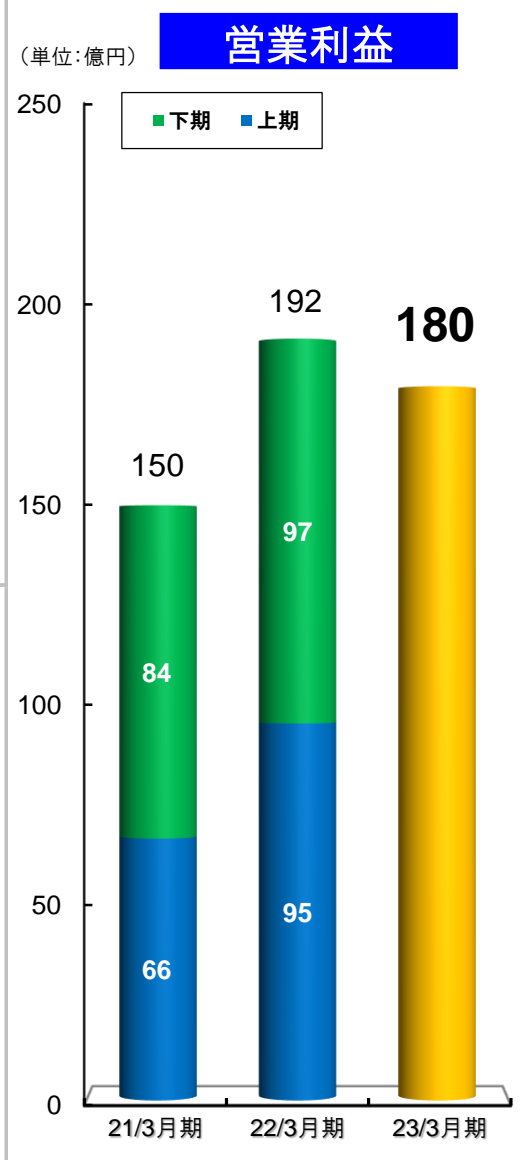
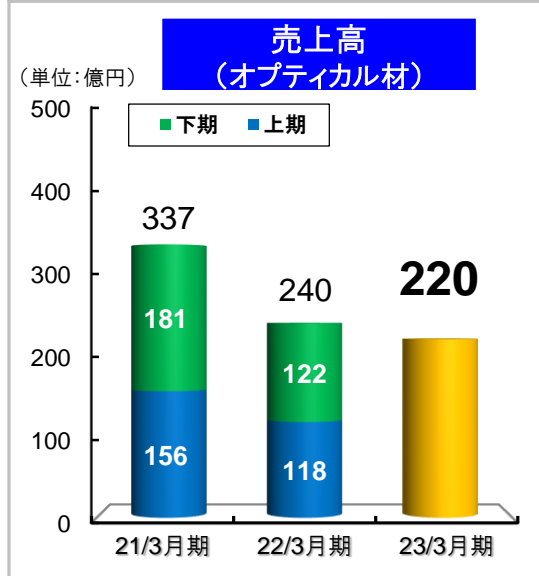
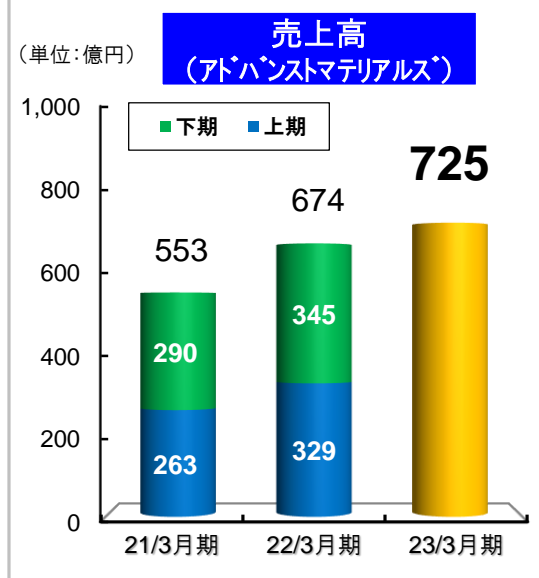
高機能ウインドーフィルムの新製品開発に注力し、米国やアジア市場において拡販に努める

自動車用粘着製品の需要が期後半に回復

各種イベントの開催に伴って装飾用フィルムの販売数量増加

2023年3月期 電子・光学関連の見通し①

	22/3月期 実績	23/3月期 見通し	増減	増減率
(単位: 億円)				
アドバンス マテリアルス 事業部門	674	725	51	7.5%
オプティカル材 事業部門	240	220	▲20	▲8.1%
売上高 合計	914	945	31	3.4%
営業利益	192	180	▲12	▲6.1%



➤ アドバンストマテリアルズ事業部門

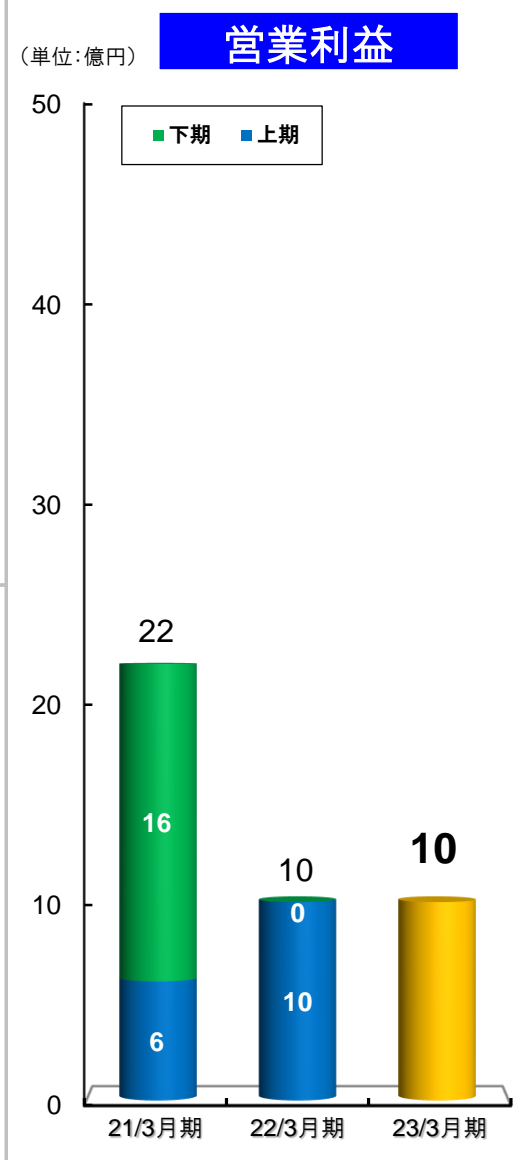
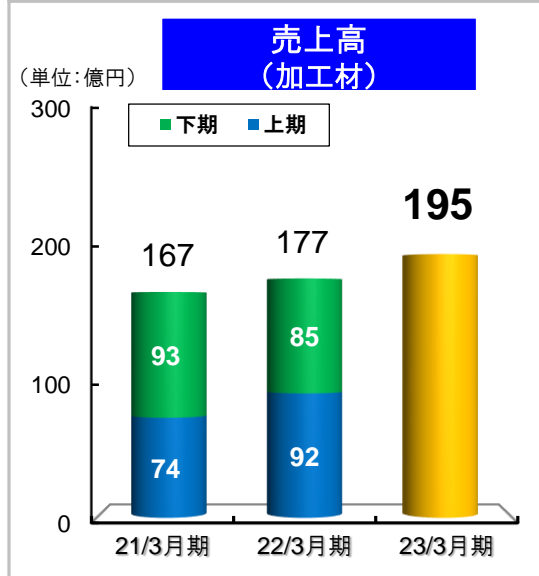
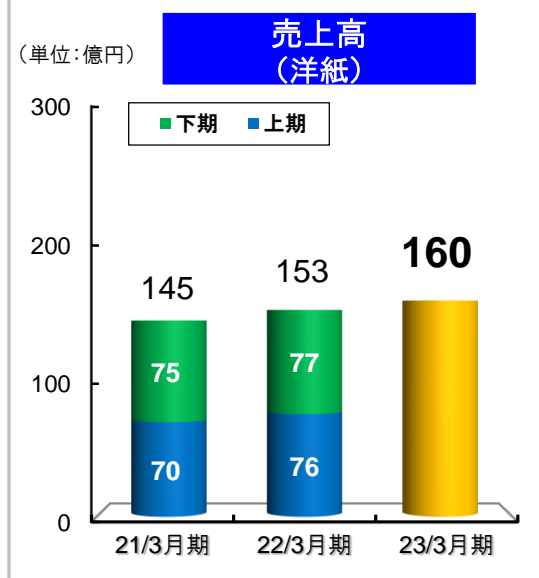
5Gの普及や下期には自動車の生産台数回復、カーエレクトロニクス化の進展などにより半導体・電子部品関連製品の需要が拡大すると予想され、半導体関連粘着テープ・関連装置、積層セラミックコンデンサ関連テープは引き続き順調に推移

➤ オプティカル材事業部門

光学ディスプレイ関連粘着製品は大型テレビのハイエンドモデルの需要が堅調に推移するものの、汎用モデルの需要が減少

2023年3月期 洋紙・加工材関連の見通し①

	22/3月期 実績	23/3月期 見通し	増減	増減率
(単位: 億円)				
洋紙 事業部門	153	160	7	4.3%
加工材 事業部門	177	195	18	10.2%
売上高 合計	330	355	25	7.5%
営業利益	10	10	0	3.0%



➤ 洋紙事業部門

カラー封筒用紙は前年同期並み

工業用特殊紙、耐油耐水紙、建材用紙は需要の増加が見込まれ堅調に推移

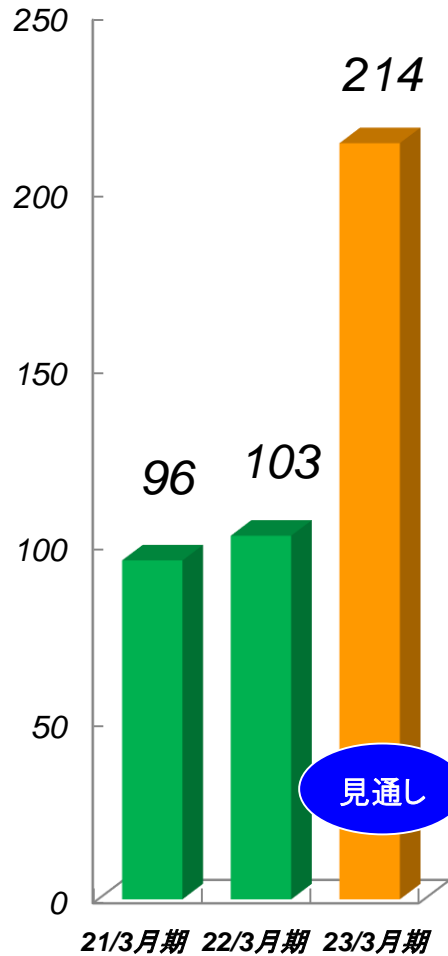
➤ 加工材事業部門

剥離紙の受注回復

炭素繊維複合材料用工程紙はスポーツ・レジャー用の需要が拡大

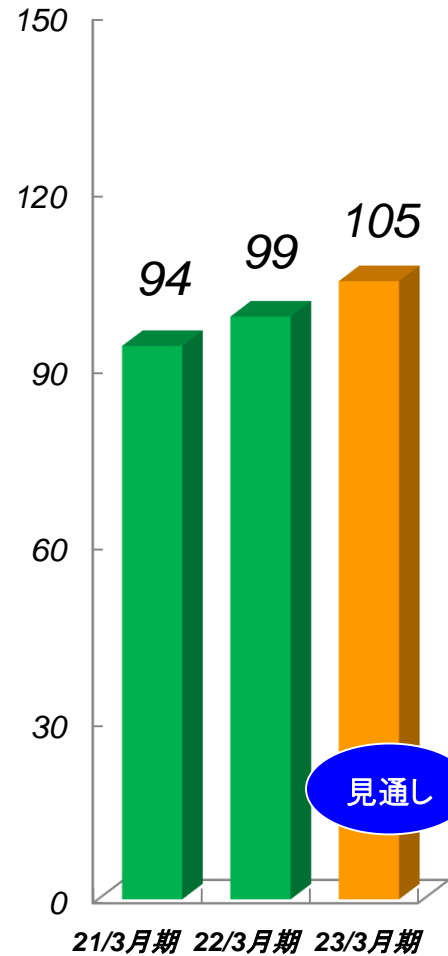
設備投資額

(単位:億円)



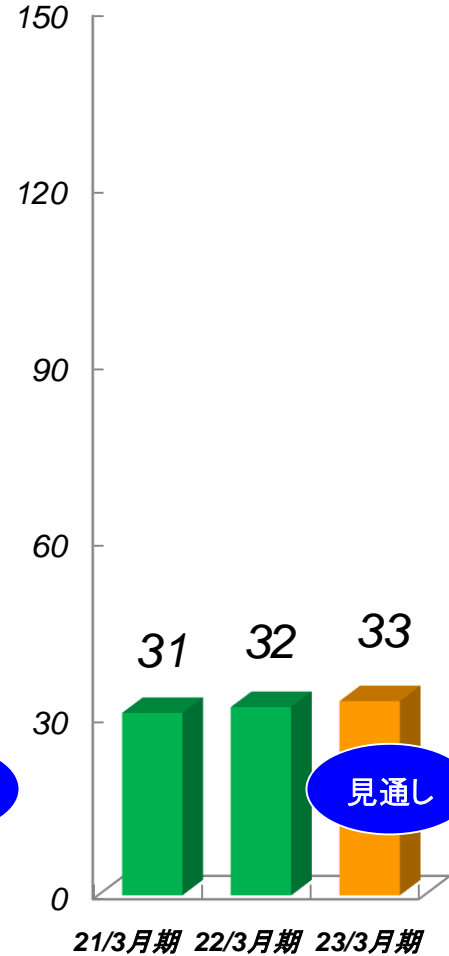
減価償却費

(単位:億円)



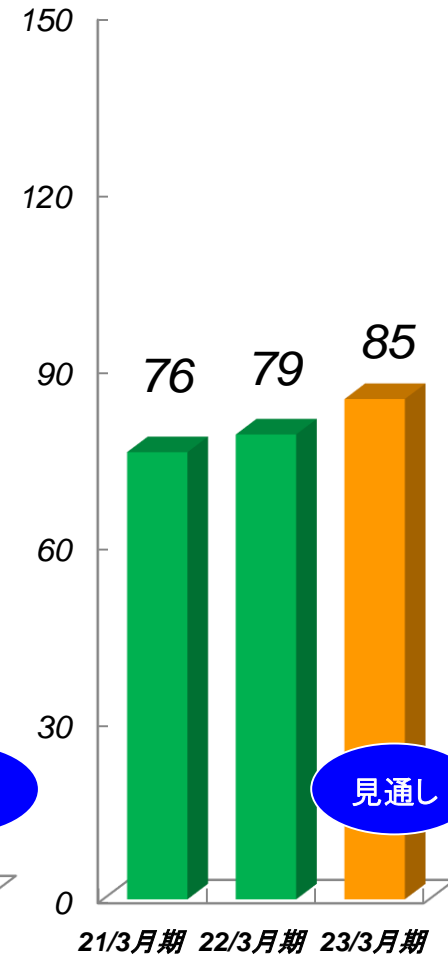
のれん償却額

(単位:億円)



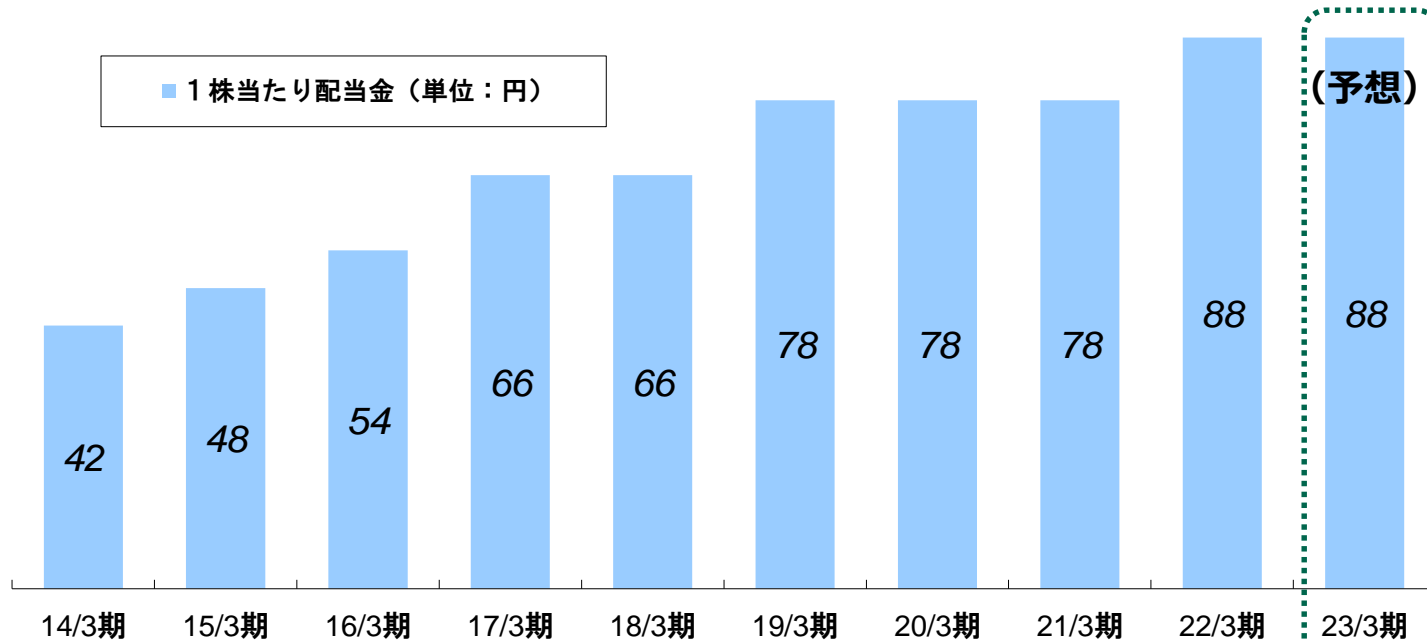
研究開発費

(単位:億円)



(基本方針)

当社は株主への利益還元の充実を経営上の最重要課題の一つと位置づけており、利益配分につきましては、経営基盤の強化を図りつつ、各事業年度の連結業績を勘案し、安定的かつ継続的な配当を行っていくことを基本といたします。内部留保資金につきましては、財務基盤の強化ならびに将来の企業価値向上のための生産設備や研究開発投資などに有効に活用してまいります。



当期純利益(億円)	85.0	116.6	109.0	114.5	112.6	129.4	96.2	114.1	166.4	155.0
1株当たり当期純利益(円)	114.22	161.63	151.07	158.69	156.02	179.24	133.20	157.81	232.12	226.36
連結配当性向(%)	36.8	29.7	35.7	41.6	42.3	43.5	58.6	49.4	37.9	38.9



中期経営計画「LSV 2030 – Stage 1」

最終年度(2024年3月期)

経営目標の変更について



2022年5月16日
リンテック株式会社

●長期ビジョン LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030

2030年のあるべき姿を描き、その実現に向けたマイルストーンとして
3年ごとの中期経営計画を策定・推進

イノベーションによる企業体質の強靱化と持続的
成長に向けた新製品・新事業の創出を通じて、
サステナブルな社会の実現に貢献する

2021
年

2030
年

2030年3月期
財務指標

売上高営業利益率
12%以上

ROE
10%以上



LSV2030 - Stage 1 初年度の連結業績が
最終年度の経営目標を前倒して達成



経営目標
を変更

中期経営計画 LSV 2030 – Stage 1 最終年度 (2024年3月期) 経営目標

(単位：億円)

	Stage 1 最終年度 2024年3月期 ＜変更前＞	Stage 1 初年度 2022年3月期 実績	Stage 1 2年目 2023年3月期 見通し	Stage 1 最終年度 2024年3月期 ＜変更後＞
売上高	2,550	2,568	2,850	3,000
営業利益	210	216	215	240
親会社株主に帰属する 当期純利益	140	166	155	170
売上高営業利益率	8%以上	8.4%	7.5%	8%以上
ROE (自己資本当期純利益率)	7%以上	8.2%	7%以上	8%以上

【為替レート】	変更前 → 変更後	円/US\$ 105.00 → 115.00
		円/1-円 125.00 → 136.30
		円/ウォン 0.090 → 0.1012
		円/中国元 16.00 → 18.10
		円/台湾\$ 3.70 → 4.15

印刷材・産業工材関連

(単位：億円)

		Stage 1 最終年度 2024年3月期 ＜変更前＞	Stage 1 初年度 2022年3月期 実績	Stage 1 2年目 2023年3月期 見通し	Stage 1 最終年度 2024年3月期 ＜変更後＞
売上高	印刷・情報材事業部門	1,070	1,013	1,215	1,290
	産業工材事業部門	310	311	335	355
	計	1,380	1,324	1,550	1,645
営業利益		30	14	25	35

電子・光学関連

(単位：億円)

		Stage 1 最終年度 2024年3月期 ＜変更前＞	Stage 1 初年度 2022年3月期 実績	Stage 1 2年目 2023年3月期 見通し	Stage 1 最終年度 2024年3月期 ＜変更後＞
売上高	アドバンストマテリアルズ 事業部門	640	674	725	780
	オプティカル材事業部門	190	240	220	205
	計	830	914	945	985
営業利益		154	192	180	190

洋紙・加工材関連

(単位：億円)

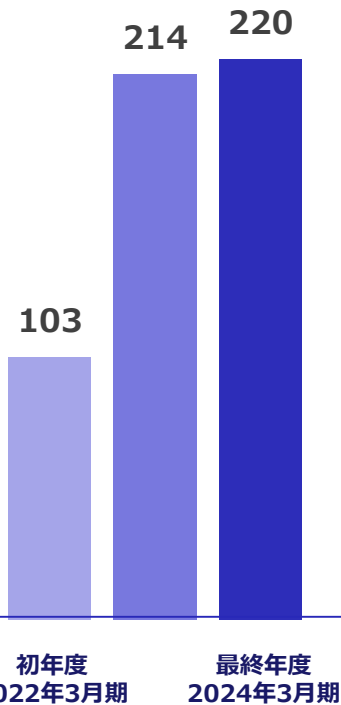
		Stage 1 最終年度 2024年3月期 ＜変更前＞	Stage 1 初年度 2022年3月期 実績	Stage 1 2年目 2023年3月期 見通し	Stage 1 最終年度 2024年3月期 ＜変更後＞
売上高	洋紙事業部門	155	153	160	165
	加工材事業部門	185	177	195	205
	計	340	330	355	370
営業利益		26	10	10	15

LSV 2030 – Stage 1 設備投資額・減価償却費・のれん償却額・研究開発費

(単位：億円)

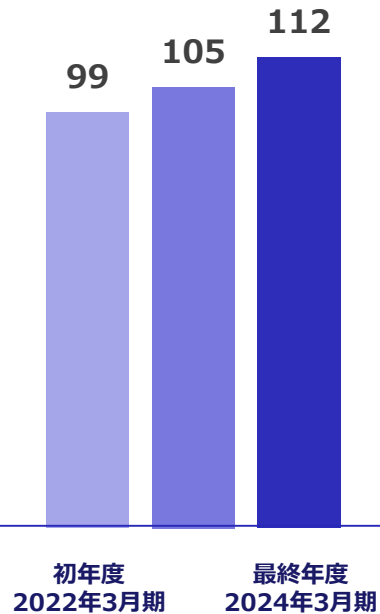
設備投資額

400億円
→ 537億円



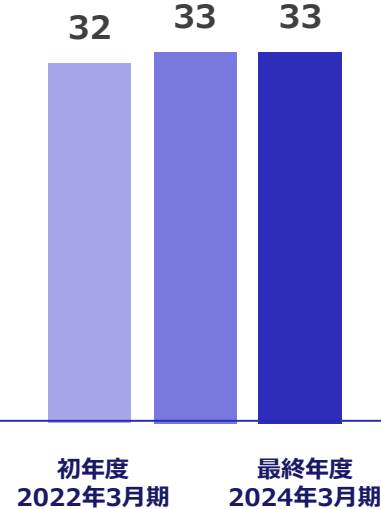
減価償却費

300億円
→ 316億円



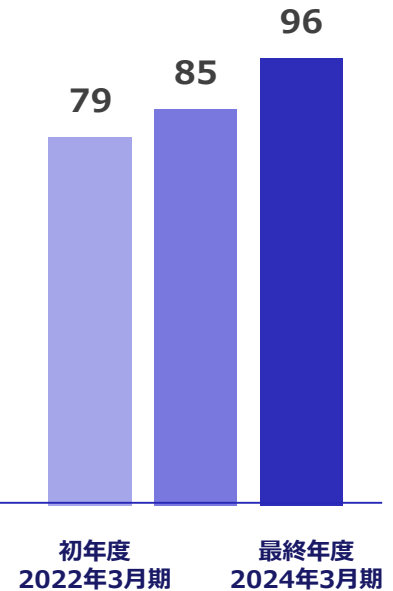
のれん償却額

90億円
→ 98億円



研究開発費

255億円
→ 260億円



ご清聴ありがとうございました

本資料の内容に関する注意

本資料に記載された計画や予測等は、資料作成時点での様々な前提に基づいた弊社の判断であり、その内容の正確性を保証したり、将来の計画数値、施策の実現を確約したりするものではありません。また、今後、予告なしに変更されることがあります。